8月10日（月曜日）「シメオンの賛歌」

【新改訳 2017】

ルカ　2.25-35

「‥‥‥シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。『主よ。‥‥‥私の目があなたの御救いを見たからです。御救いはあなたが万民の前に備えられたもので、異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの栄光です。」（28-32 節）

　シメオンはエルサレムに住んでいた正しい、敬虔な人で、イスラエルが慰められることを待ち望んでいた人でした（25 節）。

　彼は特別に聖霊がとどまるという祝福を受けており、幼子イエスが両親によって宮に連れて行かれた時、共に宮に入り、イエスを抱いてこの賛歌を謳いました。彼は幼子イエスご自身を見て神の救いを見たと言い、慰めと平安を得ました。この方（救い）は、全世界のすべての人々のために神が備えてくださったこと、したがってイスラエルの光栄であり、異邦人を照らす神の啓示の光であることを宣言しています。

　これは聖霊が彼に示し、語らせたことだったのです。私たちにもこの認識と信仰が必要ではないでしょうか。

～祈り～

主よ。あなたの御使いは、万民のためであることを感謝いたします。それで私のような者も救われ、神の家族に入れていただきました。御名を賛美いたします。

【学びのために】

真の神は、一民族や民族の神だけではなく、全世界、全宇宙の神であることをしっかりと覚えたいものです。